

運営推進会議記録

<p>開催 日時</p>	<p>平成 26 年 12 月 16 日 (火) 18 時 00 分 ~ 19 時 00 分</p>	<p>場 所</p>	<p>株式会社グラフィス 大阪支店会議室</p>
<p>参加者</p>	<p>町会長、地域包括支援センター主任居宅支援専門員、地域包括支援センター社会福祉士、介護支援専門員、介護事業者本店長、 医院 院長、クリニック 医師、看護師 社会福祉士、グッドライフケア 2 4 大阪オペレーター 3 名、グッドライフケア訪問 看護ステーション大阪看護師 2 名、グッドライフケア居宅介護支援センター大阪北 1 名 計 15 名</p>		
<p>平成 25 年 9 月～平成 26 年 11 月現在の利用者数等の報告を一覧表を用い行う。 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例 1 例に関して報告。 事例に関し質疑応答。 〇〇医院 院長、〇〇クリニック 医師より。</p>			

内容等の評価（事例紹介）

利用者：H様 年齢79歳 女性 要介護5 分譲マンション1階息子様と同居中

疾患名：末期腎不全(人工透析3回/週)、左上腕皮膚潰瘍(MRSA+)

家族構成：息子様と2人暮らし。同マンションに本人様の妹様が住まれており、朝食介助や夕食介助、買い物など身の回りのことをして下さっている。(日中はパートのため不在)

息子様はベーチェット病の治療中に両眼失明されている。

ご自身で飲食店を数箇所経営されており自宅と会社を行き来され日中はほとんど会社に行かれている。

○グッドライフ訪問看護ステーション及び、定期巡回随時訪問介護看護依頼の経緯と訪問開始から現在までの状況。

平成26年3月腎臓悪化に伴い入院、翌月に左内シャント造設。その後、シャント音弱く透析困難になり再度手術行いが手術時に使用したセフェム系薬剤使用後より薬疹あり。一旦手術まで開通するが翌朝に狭窄。人工血管挿入後よりシャント部の腫脹みられ徐々に全身へ拡大し全身性びらん形成。現在も左上腕のみびらんが12cm×8cmほどの大きさで残存。

平成26年8月に右鎖骨部にパーマネントカテーテル挿入。皮膚潰瘍部分の処置が必要であり入院長期化となり全身の筋力の低下、および認知症症状が進行していることから息子様より強く退院希望される。入院前のご自身での歩行は可能であったが、入院中に歩行困難となり車椅子生活になられたとのこと。日中もほとんどベッドで横になり過ごされていた。

平成26年10月に息子様が入院がこれ以上長期化するとADLがさらに低下するとの思いが強く、Y病院より退院され施設ではなく自宅療養を希望される。

自宅療養開始とのことで、担当ケアマネージャーより定期巡回随時訪問介護看護の説明依頼があり、退院前に自宅にて息子様との話し合いを行う。

- ・一般の訪問介護、訪問看護では費用が掛かりすぎる。
- ・一社で深夜訪問を含め、すべてを賄うのには無理がある。

上記のことから、定期巡回随時訪問介護看護を利用するしかないと決定した。

10月1日、定期巡回随時訪問介護看護で看護・ヘルパーの介入開始。退院後直ぐは左上腕潰瘍からの浸出液多量にあり、1日に2回看護師訪問が必要だったため特別指示書にて訪問看護開始。

同時に日中は一人のため排泄介助、食事・服薬、清潔ケアのため定期巡回介護が1日5回、介入開始となった。

介護の状況では、体交スムーズでトイレ内の立位安定。

訪問時間を息子様と相談し、調整しながらヘルパーが介入していった。

退院後の10月4日に透析室でパーマネントカテーテル閉塞となり入れ替えのためY病院に入院。

10月18日に退院となり、退院後は左上腕部からの浸出液も減少しておりガーゼ交換が1回/日で可能になったため家族さま、スタッフ間で相談し11月より訪問看護は介護保険で訪問させていただくことになる。

11月に入り、息子様発信の随時コールが頻繁にあり深夜1時、3時、5時と随時訪問が続いた為、深夜の定期巡回訪問時間を決めず、随時対応することを決める。

また、当初から家族さまのADL拡大のためにリハビリを取り入れて欲しいという希望もあったため11月よりリハビリ1回/週開始となる。

現在も左上腕潰瘍部の状態は変わらず、浸出液減少し乾いてきている状態。生食洗浄とプロペト軟膏塗布、ガーゼ保護の処置を毎日するが著変なし。

2回/月、Y病院の皮膚科へ受診されているが主治医からは植皮するよう勧められている。息子様は植皮することで他の皮膚状態が悪化することや認知症症状が悪化すること、ADLが低下することなどを懸念し植皮については拒否されている状態。

11月下旬から、息子様対応にてトイレまでの移動、排泄介助を行なっていただくことにより随時コールが激減する。

同時に配食弁当を昼食、夕食と開始され徐々に食事量も増えてきている。

運営推進会議報告書（平成 26 年度分）

平成 26 年 6 月 17 日(火)	15 時 00 分 ~ 16 時 00 分	開催場所 グラフィス大阪支店会議室
参加者 11 人 (■職員等 5 人、□利用者 人、□家族 人、■地域代表 1 人、■地域包括支援センター2 人、■他事業所 3 人)		
主な議題 (要望・助言等) 現状報告、弊社東京での現状報告、今までの事例まとめ、問い合わせ先、今後の方向性の説明。 サービス範囲の確認。費用の違い、東京での人員配置、夜朝深夜帯での看護師の対応。 施設との連携強化について質疑応答をおこなった。		
平成 26 年 9 月 16 (火)	15 時 00 分 ~ 16 時 00 分	開催場所 グラフィス大阪支店会議室
参加者 11 人 (■職員等 5 人、□利用者 人、□家族 人、■地域代表 1 人、■地域包括支援センター2 人、■他事業所 3 人)		
主な議題 (要望・助言等) 現状報告、事例 2 件を報告、定期巡回随時対応型訪問介護看護の問合せ状況を説明。 定期巡回随時対応型訪問介護看護のサービスを利用する場合、プランのボーダーラインと利用者様、家族様とのコミュニケーションが大事であるとの話し合いをおこなった。		
平成 26 年 12 月 16 日(火)	18 時 00 分 ~ 19 時 00 分	開催場所 グラフィス大阪支店会議室
参加者 15 人 (■職員等 6 人、■地域医療関係者 4 人、■地域代表 1 人、■地域包括支援センター2 人、■他事業所 2 人)		
主な議題 (要望・助言等) 現状報告と事例 1 件についての紹介・説明。 事例について、参加者にて質疑応答をおこなった。また、医師からの助言もいただいた。		
主な議題 (要望・助言等)		
主な議題 (要望・助言等)		
年 月 日 ()	時 分 ~ 時 分	開催場所
参加者 人 (□職員等 人、□利用者 人、□家族 人、□地域代表 人、□地域包括支援センター)		
主な議題 (要望・助言等)		
年 月 日	事業所名	報告者名